

# 豊前海における漁業生産構造と漁業者意識

上妻 智行・江藤 拓也・佐藤 利幸・長本 篤  
(豊前海研究所)

The circumstances of fishery production and attitude of fishery producer in Buzen-Sea

Tomoyuki KOUZUMA, Takuya ETO, Toshiyuki SATO and Atsushi NAGAMOTO  
(Buzenkai Laboratory)

豊前海域における漁業経営体は規模が小さく、複数の漁業種類を組み合わせる経営体が多い。これら漁業の組み合わせは季節や漁場環境、さらには資源状況や社会経済的な背景によって大きく変化している。同時に生産者の漁業に対する意識も、これら漁業を取り巻く諸環境の変化によって大きく変わりつつあるのが現状である。

このような漁業種類や漁業者意識の変化を捉えることは海域の漁業振興を考えるうえで極めて重要であり、本来、経年的な調査が必要であると考えられるが、調査の困難性から断片的な資料しか残されていないのが実状である。

ここでは今回実施した新たな調査に基づいて、当海域における漁業への着業状況や様々な角度からの漁業者意識について現状分析するとともに、過去の調査結果と比較し、その変化要因について検討し、海区における漁業の問題について若干の考察を行ったので報告する。

## 方法

### 1. 漁業への着業状況

調査は'03年度を対象年度とし、図1に示す海区内17の漁業協同組合の職員や組合員への聞き取りによって行った。調査項目は、'89年に実施した調査と同様、従事した漁業種類別経営体数、兼業パターン数、組み合わせの類型及び操業期間とした。経営体は1世帯を1経営体として調査した。また刺網漁業、カゴ漁業のように特定の魚種を対象とする漁業種類については対象魚種も併せて整理を行い、前回調査との比較を行った。

なお地域区分は田野浦～曾根漁業協同組合までを北部地域、荻田町～西八田漁業協同組合までを中部地域及び

椎田町漁業協同組合～吉富漁業協同組合までを南部地域として整理した。

### 2. 漁業者意識

調査は前述の調査と同様'03年を対象とし、アンケート形式により海区内の専業漁家214名を対象として行った。回答不備を除く196名について年齢階層別(39歳以下の青年層, 40～59歳の壮年層, 60歳以上の老年層)と地域別(田野浦漁業協同組合～曾根漁業協同組合までを

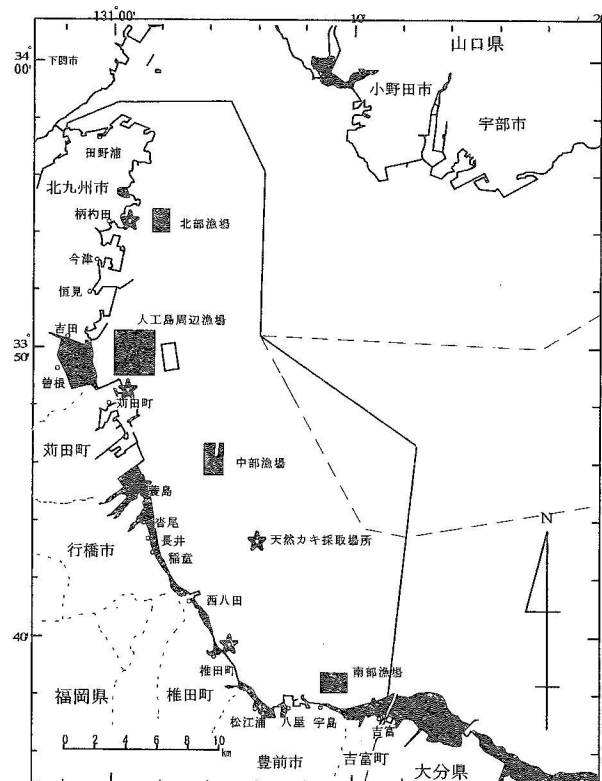


図1 漁業協同組合位置図

北部地域、苅田町漁業協同組合～稲童漁業協同組合までを中部地域、西八田漁業協同組合～吉富漁業協同組合までを南部地域)の2つの視点で整理・解析するとともに、'89年に実施された同様の調査との比較も行った。

今回のアンケート回収漁家196名は、海域漁業の中心的な存在である壮年層～高年層を中心とした構成となっており、海区漁業者の意識を探るにあたっては十分な資料であると考えられる。

なお、年齢階層別の解析漁家数は年齢の記入漏れ漁家が13名あったことから183名を対象とした。内訳は39歳以下の青年層が10名、40～59歳の壮年層が63名、60歳以上の高年層が110名である。また地域別の解析漁家は北部地域67名、中部地域86名、南部地域43名の196名を対象とした。

調査項目は別紙調査表のとおり「地域漁業・漁家経営」、「資源管理」、「水産物流通」、「漁業協同組合」、「漁村生活」、「漁業環境影響」、「地域漁業振興」及び「その他」の8項目とし、56の設問を設定して調査を実施した。

## 結果および考察

### 1. 漁業への着業状況

#### (1) 各漁業協同組合別の着業状況

##### 1) 北部地域

##### ○ 田野浦漁業協同組合

当海域の最北に位置する田野浦漁業協同組合は、北九州市門司区のコンテナ基地に隣接するなど、本来、漁業が盛んな漁業協同組合ではない。営まれる漁業も小漁が中心で、21経営体のうちシログチ、キス等を対象とした釣りが12経営体と最も多く、次いでマナガツオを対象とした流し刺網やタコツボ、カゴが行われている。

また、海域内で唯一行われていたえむしこぎ(釣鉤として使用されるイワムシを対象とした漁業)が姿を消したことが特徴的である。

##### ○ 柄杓田漁業協同組合

北部地域において最も漁業経営体数が多く、地域の代

表といえる柄杓田漁業協同組合の着業状況と漁業の組み合わせパターンをそれぞれ表1、表2に示した。当漁業協同組合では経営体数が少ない北部地域の中で経営体数が50と最も多く、地域内の中核的な存在である。当該漁業協同組合の漁業は、刺網とカゴを中心に小型定置網やカキ養殖が営まれている他、わずかながら小型底びき網やノリ養殖も行われている。

前回調査時と比較するとノリ養殖、小型底びき網及び小型定置網が大きく減少したことに加え、ウナギ筒、潜水といった特殊な漁業も姿を消している。

一方で、刺網やカゴの経営体数には大きな変化は見られないものの、刺網のうちマナガツオやコショウダイを対象とした流し刺網の経営体数がわずかながら増加した。

##### ○ 今津漁業協同組合

当漁業協同組合では刺網、カゴ、タコツボといった小漁を中心に操業がなされている。前回調査時には船びき網(アミこぎ)や小型底びき網といった比較的大型の漁業も存在したが、現在では完全に姿を消し、刺網、カゴといった小漁も着業数が激減するなど、漁業勢力が急速に衰えている。

##### ○ 恒見漁業協同組合

当漁業協同組合では冬季のカキ養殖を中心に、夏場には刺網が行われている。以前行われていた小型定置網やカゴが姿を消し、漁業の組み合わせは単純なものに変化した。急速に台頭したカキ養殖が中心的な漁業となり、漁業勢力が急速に衰えた北部地域にあつて唯一活気あふれる漁業協同組合となっている。

高齢者を中心に漁業からの引退者はいるものの、カキ養殖の収益性の高さから新規就業者やIターン者が増加しており、経営体数に変化がないのが特徴的である。

##### ○ 吉田漁業協同組合

当漁業協同組合は漁業専門者は少なく、農業との兼業で生計を立てている漁業者が多い。主な漁業はカキ養殖で、わずかながらカゴや刺網といった小漁が営まれている。

表1 柄杓田漁業協同組合における着業状況

経営体数 89年 62年  
03 50

漁業種類別経営体数

	小底	定置	刺網		延縄	釣り	カゴ	船びき	ごち網	潜水	採貝
			流し	固定							
'89	17	10	17	38	0	0	49	0	0	1	1
'03	1	5	23	35	0	0	40	0	0	0	0

	採藻	ナマコ 溜ぎ	その他				養殖業		計	
			たこほ	蛸虫こぎ	ウナギ筒	エイかけ	いしがま	カキ		ノリ
'89	0	0	0	0	2	0	0	5	15	155
'03	0	1	2	0	0	0	0	7	1	115

表2 柄杓田漁業協同組合における漁業の組み合わせ

基本漁業	組み合わせ漁業	操業期間												経営体数			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
カゴ				イカカゴ(カミナリイカ、コウイカ等)												9	
カゴ	刺網															25	
カゴ	カキ、刺網															6	
その他		刺網、ナマコ溜ぎ、底びき、枵網、カキ												10			
合計														50			

表3 蓑島漁業協同組合における着業状況

経営体数	89	121											80
	03	80											
漁業種類別経営体数													
	小底	定置	刺網		延縄	釣り	カゴ	船びき	ごち網	潜水	採貝		
			流し	固定									
89	48	18	0	58	2	0	4	15	0	0	103		
03	22	7	0	20	0	0	21	6	8	0	20		
	採藻	ナマコ 漕ぎ	その他					養殖業		計			
			たこぼ	餌虫こぎ	ウナギ籠	エイかけ	いしがま	カキ	ノリ				
89	0	3	0	0	0	3	0	0	66	320			
03	0	19	0	0	0	1	0	4	4	132			

るに過ぎない。

○ 曾根漁業協同組合

北部地域では柄杓田に次ぐ漁業経営体を有しているが、農業との兼業が多いのが特徴である。漁業種類は以前と比較して大きく変化し、アサリを対象とした採貝やノリ養殖が衰退する一方で、刺網とカキ養殖が大きく増加したことが特徴的である。

2) 中部地域

○ 荇田町漁業協同組合

当漁業協同組合では刺網、カゴを中心にカキ養殖、小型底びき網、小型定置網が営まれている。最も従事者の多い組み合わせは、刺網とカゴの2漁業種の組み合わせで、全経営体数33のうち16経営体と約半数を占める。

前回調査時と比較して小型定置網が大きく減少し、ノリ養殖が姿を消したが、カゴの増加や新たに流し刺網の着業者が増えたことが特徴的である。

○ 蓑島漁業協同組合

中部地域の代表といえる蓑島漁業協同組合における着業状況と漁業の組み合わせパターンをそれぞれ表3、表4に示した。当漁業協同組合は経営体数が80と中部地域では最も多い経営体数を誇る中核的な漁業協同組合である。漁業の専業率も高く、小型底びき網、刺網、カゴが中心に営まれる他、採貝、ナマコ漕ぎ、小型定置網、船びき網などが営まれている。

着業状況は、前回の調査時に比べ、カゴ漁業とナマコ漕ぎが増加した一方で、小型底びき網をはじめ、ノリ養殖、採貝、刺網などほとんどの漁業種類で経営体が減少した。

特に、漁業の組み合わせ構造の中心的な役割を担っていた採貝漁業が、近年、アサリ資源の長期的な減少に伴って、大きく減少したことが深刻な問題である。

同時に兼業のパターンも他組合と同様に単純化しており、一経営体が行う漁業種類が減少していることが特徴的である。

○ 沓尾漁業協同組合

表4 蓑島漁業協同組合における漁業の組み合わせ

基本漁業	組み合わせ漁業	振業期間												経営体数
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
小型底びき網						小底(2種、3種)								8
小型底びき網	カキ、ノリ、カゴ、刺網			小底(3種)			小底(2種)					小底(3種)		14
							カキ養殖							
採貝														7
採貝	刺網、カゴ													15
採貝														15
その他														21
合計														80

当漁業協同組合は蓑島漁業協同組合と並ぶ中部地域の中心的な存在である。経営体数は50のうち28経営体が小型底びき網に着業するなど、当該漁業が主幹の漁業として位置づけられる。採貝についてはアサリの資源量によって経営体数が大きく変動するため、正確な経営体数は把握できなかったが、蓑島漁業協同組合と同様に大きく減少しているものと考えられる。

漁業種類別の経営体数は、刺網を除きいずれも大きく減少しており、特に底びき網や船びき網の減少が著しい。

○ 長井漁業協同組合

当漁業協同組合地先は豊前海では珍しい砂浜海岸で、かつてはバカガイを対象とした採貝漁業が盛んであったが、バカガイ資源の減少に伴い、採貝経営体数は激減している。

また、固定式刺網が姿を消し、その他の漁業も大きく衰退し、小型底びき網や小型定置網、カゴによってわずかな数世帯が漁業に従事するのみとなっている。

○ 稲童漁業協同組合

当漁業協同組合では主幹漁業である小型底びき網が大きく減少していることに加え、小型定置網、カゴ、採貝といった漁業も減少し、ノリ養殖やエイかけについては消滅するなど、漁業勢力が著しく衰えていることが特徴的である。

○ 西八田漁業協同組合

当漁業協同組合は、もともと漁業経営体数が少ない組合であったため、経営体の減少率こそ低いものの、漁業経営体数は小型定置網漁業とカゴ漁業に従事するわずか6経営体となるなど、長井漁業協同組合と並び、豊前海区の中でも最も漁業勢力の弱い組合である。

3) 南部地域

○ 椎田町漁業協同組合

当漁業協同組合では11の経営体が漁業に従事してい

表5 宇島漁業協同組合における着業状況

経営体数	89	88										
	03	64										
漁業種類別経営体数												
	小底	定置	刺網		延縄	釣り	カゴ	船びき	ごち網	潜水	採貝	
			流し	固定								
89'	67	9	15	5	0	0	26	21	10	0	2	
03'	46	6	3	4	0	0	20	14	3	0	0	
養殖業												
	採藻	ナマコ 溜ぎ	その他				養殖業		計			
			たこつほ	蛸虫こぎ	ウナギ 筒	エイかけ	いしがま	カキ	ノリ			
89'	0	0	0	0	0	0	0	0	5	160		
03'	0	0	0	0	0	0	0	9	0	105		

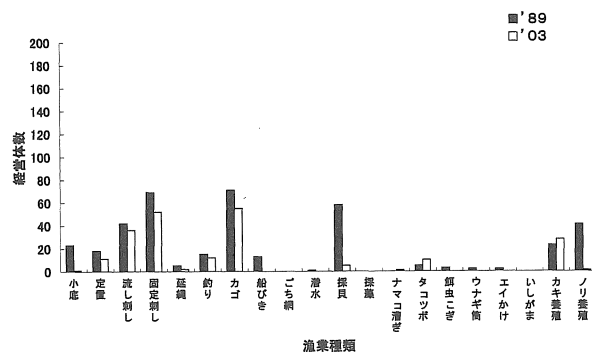


表6 宇島漁業協同組合における漁業の組み合わせ

基本漁業	組み合わせ漁業	操業期間												経営体数		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
小型底びき網					小底(2種, 3種)										25	
小型底びき網	船びき, ごち網, カゴ, 刺網, カキ		小底(3種)			小底(2種)							船びき(シラサ)			
													ごち網(キス, シログチ)			
														カキ養殖		
															流し刺(コタイ, マナガツオ, サワラ)	
															固定刺し(セイゴ 磯たて)	
															アナゴカゴ	
桁網	カゴ, 刺網														6	
カゴ	刺網														12	
その他																
合計															64	

図2 北部地域における着業状況の変化

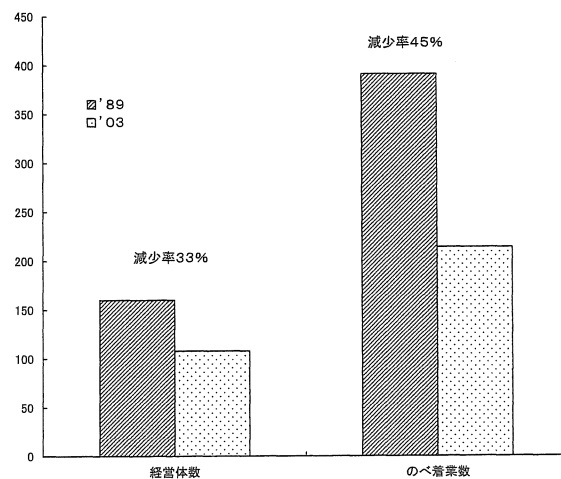


図3 北部地域における経営体数・延べ着業漁業種類数の変化

る。以前は小型定置網とノリ養殖を中心に漁業が構成されていたが、ノリ養殖が消滅し、わずかに残った小型定置網を中心に刺網やカゴが行われている状況である。

一方で、流し刺網を営む経営体数が増加したことと、'02年から新たにカキ養殖が導入されたことや小規模ながらガザミの蓄養出荷に取り組むなど新たな芽生えが感じられる。

○ 松江浦漁業協同組合

当漁業協同組合はもともと漁業従事者が少なかったが、アサリ資源の減少に伴う採貝の減少やノリ養殖の消滅によって更に減少し、現在では小型定置網、固定式刺網、カゴがわずかながら営まれているに過ぎない状況へと変化した。

○ 八屋漁業協同組合

当漁業協同組合では小型定置網が消滅し、小型底びき網、採貝が減少したが、流し刺網やカゴが増加していることが特徴的である。

さらに、当漁業協同組合では建干し網による観光漁業に力を入れると同時に、トラフグやヒラメを対象とした陸上養殖試験、あるいはガザミを対象とした蓄養出荷などに新しい取り組みも試みられている。

○ 宇島漁業協同組合

南部地域の代表といえる宇島漁業協同組合における着業状況と漁業の組み合わせパターンをそれぞれ表5、表6に示した。当漁業協同組合は経営体数が64と南部地域では最も多く、古くから漁業勢力が強い組合である。

漁業の組み合わせは以前と同様に小型底びき網が中心ではあるが、その経営体数は激減しており、さらに、小型定置網、刺網、船びき網、カゴ、ごち網についても減少するなど、漁業勢力が急速に衰えている。

一方で、近年、小型底びき網漁業者がグループを作りカキ養殖に着手するなど、新たな取り組みも芽生えるなど、明るい兆しも見受けられる。

○ 吉富漁業協同組合

当漁業協同組合は、地先に広がる山国川河口域の干潟域においてノリ養殖やアサリ漁業が盛んな地域であったが、ノリ養殖はノリ単価の低迷やアサリ資源の減少に伴って大きく衰退している。また漁船漁業の中心的存在

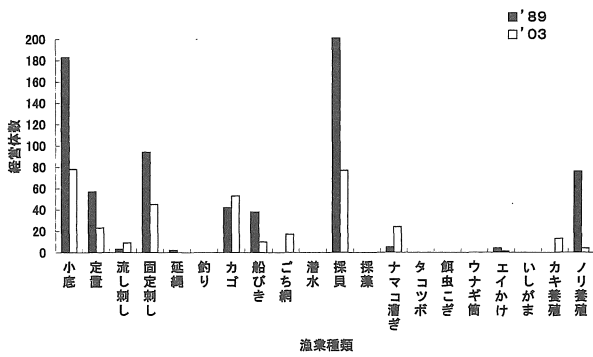


図4 中部地域における着業状況の変化

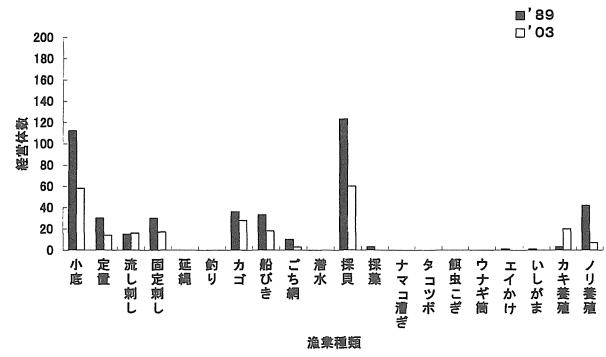


図6 南部地域における着業状況の変化

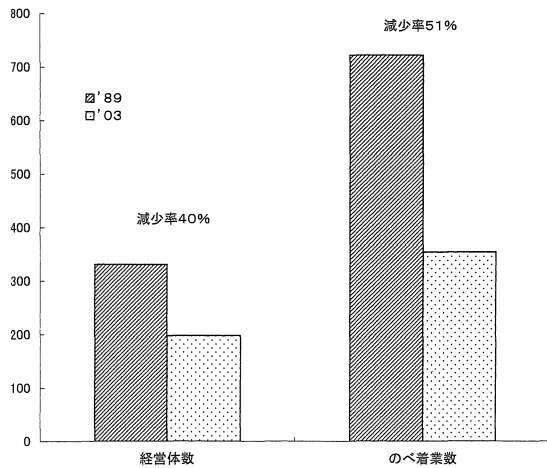


図5 中部地域における経営体数・延べ着業漁業種類数の変化

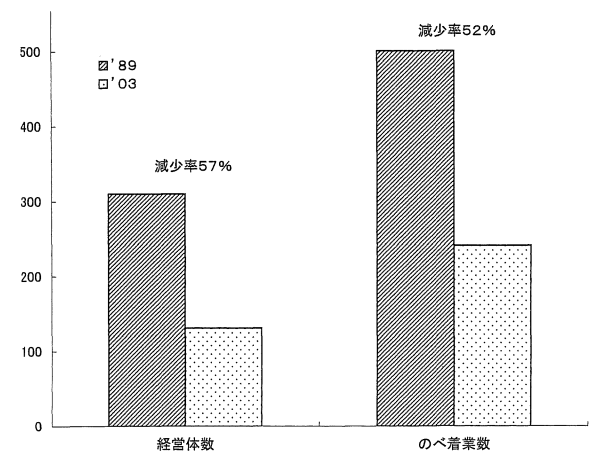


図7 南部地域における経営体数・延べ着業漁業種類数の変化

であった小型底びき網も減少するなど、漁業勢力が急速に衰えている状況にある。

## (2) 各地域別の特徴

### 1) 北部地域

北部地域全体における各漁業種類毎の着業数の変化を図2に、また着業経営体数と延べ着業漁業種類数の変化を図3に示した。

当該地域の特徴として、大きな設備投資や労働投下を必要とする小型定置網や小型底びき網の減少が顕著で、小漁と呼ばれるカゴや刺網が相対的に増加していることが挙げられる。また、地域内の漁業経営体数は160から108へと減少し、また延べ着業漁業種類数も391から294へと減少するなど漁業勢力は着実に衰えてはいるものの、中部や南部地域といった従来から漁業専門率が高く、漁業勢力の強い地域と比較するとその減少率は低いことが特徴的である。

一方で、恒見漁業協同組合に代表されるようにカキ養

殖が急速に普及し、地域の基幹漁業へと発展しており、以前のように多種多様な漁業を営む漁業形態から、設備投資の少ない小漁と収益性の高いカキ養殖という大きな2つの柱によって支えられる漁業形態へと変貌を遂げつつあるのが北部地域の漁業の特徴といえる。

### 2) 中部地域

中部地域全体における各漁業種類毎の着業数の変化を図4に、また着業経営体数と延べ着業漁業種類数の変化を図5に示した。

中部地域では主幹漁業である小型底びき網やアサリ等を対象とする採貝が急速に衰退した。特にこの傾向は漁業の専門率が高い衰島や杳尾漁業協同組合で顕著である。また地域内の漁業経営体数は331から198と2/3近くまで減少し、延べ着業漁業種類数についても722から354へと半減し単調な着業パターンへと変化するなど漁業勢力が急速な衰えが特徴的である。

更に、北部地域において普及が進んでいるカキ養殖についても、当該地域においては普及が遅れているなど、

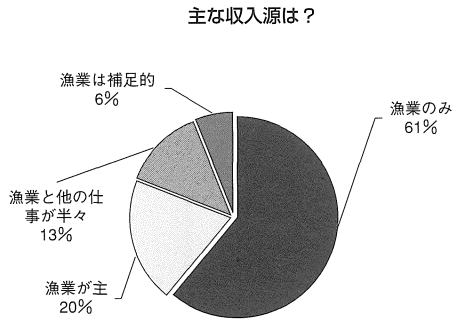


図8 主な収入源について

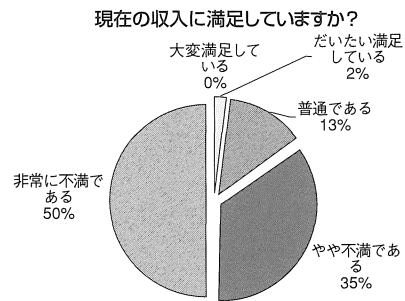


図9 漁業収入に関する意識

良い方向での漁業転換が進んでいない。一方では、ガザミの蓄養や朝市の開設など、流通面に焦点を当てた魚価向上対策が一部で芽生えており、青年漁業者を中心とした新たな取り組みが期待される場所である。

### 3) 南部地域

南部地域全体における各漁業種類毎の着業数の変化を図6に、また着業経営体数と延べ着業漁業種類の変化を図7に示した。

当該地域内ではカキ養殖など新たな漁業への取り組みや、朝市や道の駅などを利用した流通改善など様々な取り組みが積極的に行われているものの、漁業経営体数は310から131へと半減し、延べ着業漁業種類数も小型底びき網や採貝漁業の衰退を中心として501から241へと半減するなど漁業勢力の衰退が深刻な状況となっている。

## 2. 漁業者意識

### (1) 地域漁業・漁家経営についての意識

#### 1) 収入について

現在の収入に関しては図8に示すように「漁業のみ」が最も多く、全体の61%を占めた。「漁業のみ」と答えた者の割合を年齢階層別にみると39歳以下の若年層で70%、40～59歳の壮年層で47%、60歳以上の高齢層で66%となっている。

前回調査ではそれぞれの年齢階層別に83%、82%、75%と高齢化に従い低くなる傾向が見られたが、今回の調査では階層間に一定の傾向は認められなかった。しかしながら、前回調査と比較して「漁業のみ」と答えた者の割合が各年齢階層ともに低くなり、特に壮年層の落ち込みが著しいことが特徴的である。

また、「漁業のみ」と答えた者の割合を地域別に見ると前回調査で北部地域が54%、中部地域では90%、南部地域では96%と中部～南部地域で依存度が高かったのに対し、今回調査では北部地域で45%、中部地域で75%、南部地域で53%といずれの地域でも依存度が低下し、特

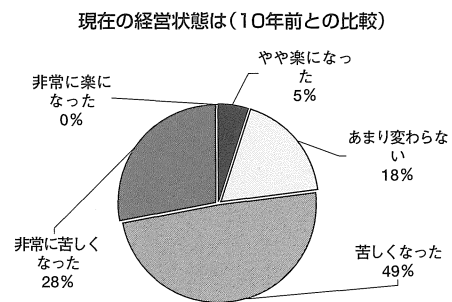


図10 経営状態に関する意識

に中部から南部地域でその傾向が顕著であった。

このように、これまで海区漁業の中心的地域であった中～南部地域において、収入源を漁業以外に求める漁業者が増加し、その傾向は特に教育費や住宅費等を必要とする壮年層において強いことが浮き彫りとなるなど、漁業振興上、極めて深刻な問題であると考えられる。

次に漁業収入に対する満足度に関する調査結果を図9に示した。全体的には「非常に不満」が50%、「やや不満」が35%と現在の収入に不満を持っている者の割合が85%と高く、前回調査の81%と比較しても高くなっている。年齢階層別では特に若年層に不満を抱く者の割合が高く、地域別では北部地域で83%、中部地域で85%、南部地域で89%と海区を南下するほどその傾向は強かった。これらの要因として、政令都市である北九州市を抱えるなど漁獲物の商品化条件の整った北部地域に比べて、交通事情、市場機能等が相対的に低い中～南部地域では魚価の低迷による影響が大きいと考えられる。

#### 2) 経営の現状と圧迫要因について

現在の経営状況についての意識として、図10に示すように、全体的には「非常に苦しくなった」が28%、「苦しくなった」が49%、と苦しさを抱える漁業者が77%に

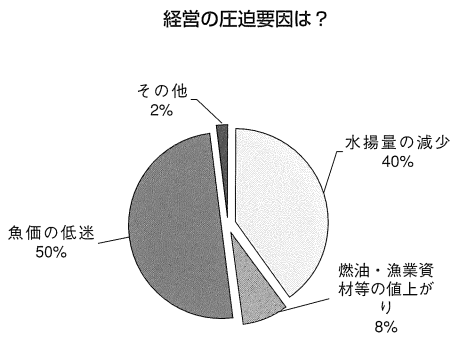


図11 経営の圧迫要因に関する意識

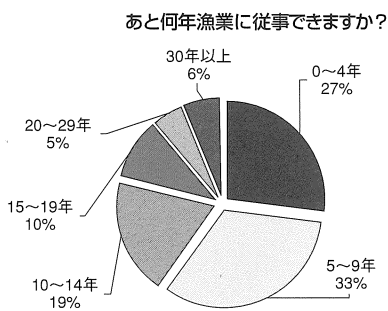


図12 従事可能年数に関する意識

も上る。これを年齢別にみると若年層で50%、壮年層で70%、高年層で82%と加齢に伴い高くなり、豊前海の漁業が漁業者にとって魅力のないものへと変化していることが伺える。また、地域別には北部地域で74%、中部地域で78%、南部地域で79%とやはり南下するほど苦しさを訴える割合が高くなっている。

次に経営を圧迫する要因を図11に示した。全体では「魚価の低迷」が50%、「水揚量の減少」が40%と二つの要因で90%を占めた。特に「魚価の低迷」は前回調査の14%と比較して急激に増加している。

年齢階層別では「魚価の低迷」及び「水揚量の減少」と答えた者が若年層でそれぞれ60%、20%、壮年層では55%、35%、高年層では49%、41%と、若年層ほど「魚価の低迷」を経営圧迫要因として訴える声が多く、逆に高齢者ほど「水揚量の減少」とするものが多かった。

更にこれを地域別にみると、北部地域で「魚価の低迷」が44%、「水揚量の減少」が42%、中部地域でそれぞれ56%、37%、南部地域でそれぞれ42%、42%であった。

「水揚量の減少」を経営圧迫要因とする声が高齢者に多いのは、経験年数を積んだ漁業者の実感として重視すべき結果であり、過去と比較して資源水準が大きく低下したことを裏付けるものと考えられる。

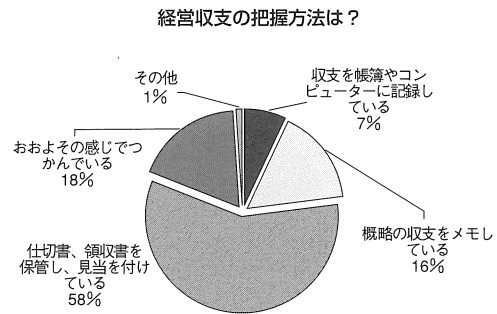


図13 経営の把握方法について

### 3) 漁業従事者の体力的限界について

漁業従事者の体力的限界については、図12に示すように全体では「0~4年」が27%、「5~9年」が33%、「10~14年」が19%、15年以上の回答者が21%であり、10年未満の回答者が60%と高い割合を占めている。10年未満の回答者を地域別にみると北部地域では68%、中部地域では54%、南部地域では62%であり、前回調査における北部、中部、南部それぞれ56%、33%、12%と比較しても高い割合になっている。

前回調査時において10年未満の回答者の割合が高かった北部地域では、カキ養殖業等新たな漁業の普及や小漁への転換によって、漁業者数の減少が他地区並に抑制されたが、今回の調査では漁業への依存度が高い中~南部地域において10年未満と答えた者の割合が、前回調査と比較して急増したことは非常に深刻な問題であると考えられる。

### 4) 経営管理について

経営実績の自己把握方法については図13に示すように、全体的に「帳簿やコンピューターによる記録」しているものが7%、「概略の収支をメモ」しているものが16%、「仕切り書等によって見当をつけている」ものが58%と、自己の経営収支を何らかのデータに基づいて行っている者の割合が81%と高かった。何らかのデータに基づいて経営管理を行っている者を年齢階層別に見ると若年層で80%、壮年層で86%、高年層で77%、地域別に見ても北部地域で81%、中部地域で85%、南部地域で74%と、各年齢や地域毎に若干の差はあるものの、約8割がデータに基づく管理を行っていることが明らかになった。

前回調査時ではデータに基づく管理を行っている者の割合が全体で6割弱であったことを考えると、いわゆる「どんぶり勘定」的な経営意識は少なくなり、より堅実な経営把握が行われるようになったことが伺える。

次に、経営改善に対する努力方法についての調査結果

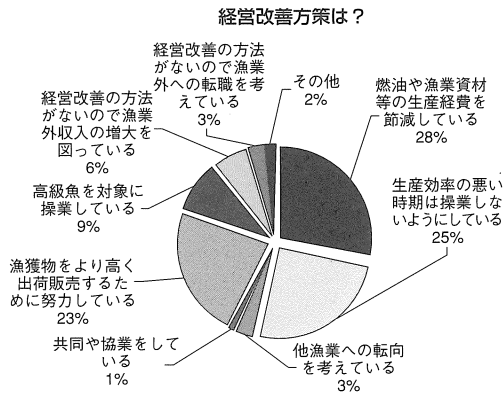


図14 経営の改善方法に関する意識

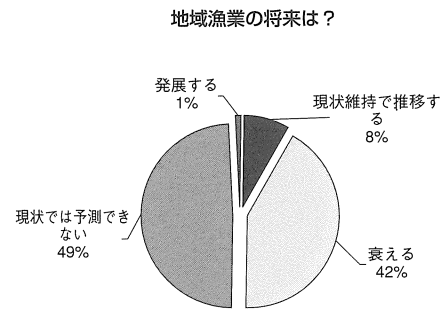


図16 地域漁業の将来性に関する意識

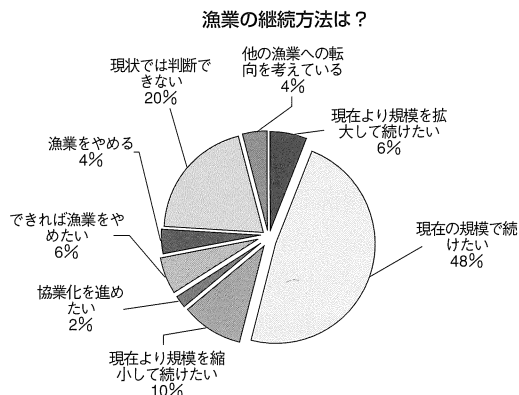


図15 将来の経営規模に関する意識

を図14に示した。全体では前回調査同様に「生産経費の削減」、「効率的な操業」、「高値出荷販売」の3項目の回答が多く、それぞれ28%、25%、23%と全体の76%を占めた。この傾向は、年齢階層別、地域別にみても大きな差はなかった。

### 5) 地域漁業の将来性について

漁業経営の将来性に関する調査結果を図15に示した。全体では「規模拡大」がわずかに6%に過ぎず、「現状維持」が48%と最も多く、現状のままで漁業を続ける意向を強く持っていることが分かった。また、年齢階層別では壮年層で「現状では判断できない」という意見が24%と高く、高年層では「規模縮小」が15%、「漁業をやめたい」が10%と消極的な意見が目立った。更に、地域別に見ると「漁業をやめたい」という漁業者の割合が中部～南部地域で高かった。このことは、前述のいくつかの質問同様に漁業勢力の強い中～南部地域において漁業者の意欲が急激に低下している危機的な状況を反映しているものと考えられる。

### 後継者はいますか？

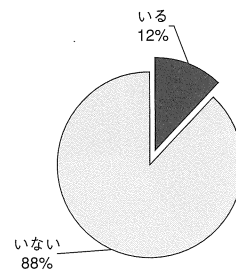


図17 漁業後継者の有無について

一方、北部地域を中心に「他漁業への転向」を考えている者も若干ではあるが存在し、転向を希望する漁業種類に関する設問では若年層や中～南部地域で「カキ養殖」を希望する者が多く、また高年層では設備投資の少ないカゴや刺網等の小漁への転向を考えている者が多いことが分かった。前回調査時に比べ、小型底びき網や小型定置網等の比較的、資本投資の必要な漁業種類から小漁への転向が多く見られ、この傾向は当面継続するものと考えられる。若年層のカキ養殖への転向希望については明るい材料である。

次に、漁業の将来性に関しては図16に示すように全体では「発展する」が1%、「現状維持」が8%であったのに対し、「衰える」が42%、「現状では判断できない」が49%であるなど、豊前海の漁業の将来に対して悲観する意見が大半を占めた。

### 6) 漁業後継者について

漁業の後継者の有無に関する調査結果を図17に示した。全体では「いない」が88%と圧倒的に多い。しかしながら地域別には北部地域で「いる」と回答した者が22%と他地域と比較して多かった。また、子弟の漁業継承については全体的には「継がせたくない」が59%と過半数を占めているものの、北部地域では「継がせたい」と回



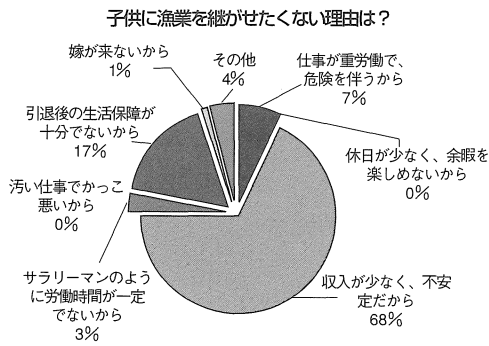


図18 漁業を継がせたくない理由

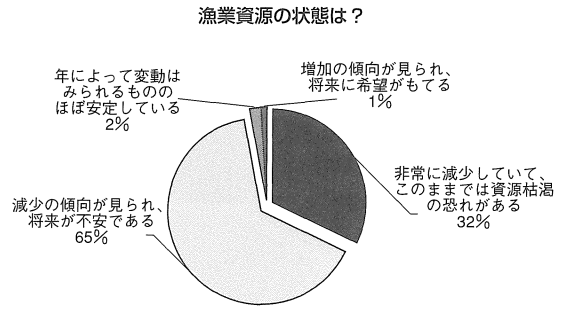


図20 漁業資源の現状に関する意識

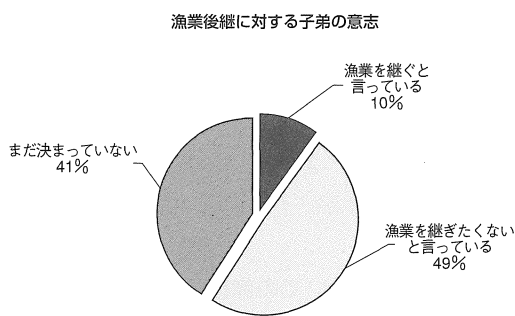


図19 漁業後継者の意向

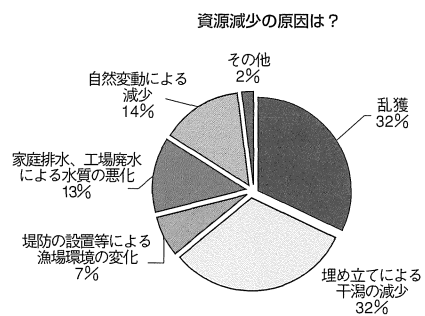


図21 資源減少要因に関する意識

答した者が13%と他地域と比較して多くなっている。北部地域が他地域と比較して後継者の存在や子弟への漁業継承を望む声強いのは、収益性の高いカキ養殖の普及によるものが大きいと考えられる。

続いて、自分の子弟に漁業を継がせたくない理由については図18に示すように「収入が少なく不安定だから」が68%、「引退後の生活保障が十分でないから」が17%であり、両者で85%と高い割合を占めている。この傾向は前回調査と同様で、年齢階層別、地域別にみても大きな差はなく共通した認識である。また、漁業継承に関する子弟の意向について、図19に示すように「継ぎたくない」が49%、「まだ決まっていない」が41%、「継ぎたい」と答えた者はわずか10%に過ぎなかった。地域別に見ると北部地域は「継ぎたい」と答えた者の割合が他地域に比べて高かった。これはカキ養殖の普及が大きく影響しているものと考えられる。

## (2) 資源管理についての意識

### 1) 漁業資源の現状について

海域の漁業資源の状態に関する調査結果を図20に示した。「非常に減少している」と認識する者が32%、「減少の傾向がみられる」とする者が65%であり、資源の悪化を訴える者がほぼ全体を占めた。この傾向は年齢階層別

や地域別にみても大きな差はなく、海区漁業者の共通した認識であり、この項目については前回調査からも大きな意識変動はなかった。

次に、資源減少の要因については前回調査では「乱獲」、「地域開発」がそれぞれ25%、57%であったのに対し、今回調査では図21に示すようにそれぞれ32%、32%と変化し、全体的には地域開発による影響を寛容に捉える傾向が伺える。

地域開発を要因と答えた者を年齢階層別にみると前回調査では若年層で71%、壮年層で58%、高年層で47%と若年層ほど高かったのに対し、今回調査ではそれぞれ30%、26%、37%と減少し、特に若年層で減少率が高かった。また乱獲を要因とする者は全体的には減少しているが、中部地域や南部地域については増加するなど地域間の意識格差が認められた。

また、近年、資源の減少が顕著な魚種として年齢、地域を問わずクルマエビや貝類、カレイ類等を挙げる声が多く、逆に増加した種類としてスズキや操業の支障となるクラゲを挙げる声が多かった。

### 2) 漁業秩序について

海域における漁業秩序の現状については図22に示すように、「適正に保たれている」と感じる者が全体で23%、「乱れている」が70%であった。また「漁業規制の必要

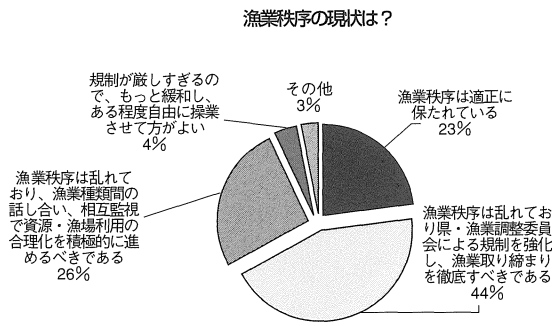


図22 漁業秩序の現状に関する意識

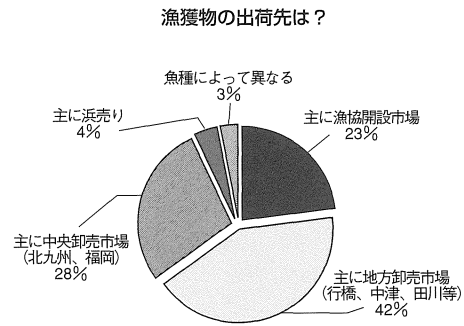


図24 漁獲物の出荷先に関する意識

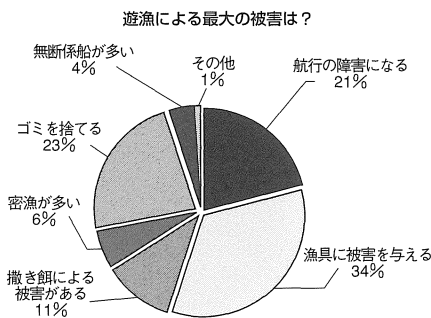


図23 遊漁被害に関する意識

性」についてはほぼ全員が必要と答えている。前回調査では「適正に保たれている」がわずか7%であったことを考えると、漁業秩序自体は適正化しつつあると思われるが、逆に言えば、漁業者の意欲低下と資源状態の悪化が進んだとも考えられる。

次に、各漁業種類に求められる規制内容については小型底びき網で「操業禁止区域に制限」が、また小型定置網では「漁獲物の体長制限」が最も多かったが、これらの意見はその当事者以外からのものが多く、依然として資源利用に関する漁業種類間の意見相違は解消されていないものと考えられる。

### 3) 遊漁について

遊漁による漁業被害については72%が「被害あり」と答えており、前回調査とはほぼ同様の状況であった。年齢階層別にみると若年層で60%、壮年層で68%、高年層で76%と高年層ほど高く、地域別では北部で78%、中部で73%、南部で62%と遊漁が多い北部地域ほど高い傾向が認められた。

また、遊漁による被害については図23に示すように「漁具被害」が最も多く34%、次いで「ゴミ投棄」が23%、「航行障害」が21%であった。前回調査ではそれぞれ11%、32%、24%であり、今回調査では漁具への被害を挙げる者の割合が急増している。これはポートフィッシ

ング等の普及や沖合域への魚礁の設置等によって漁船が操業する場所まで遊漁が進出し、カゴや刺網を中心とする小漁へ被害を及ぼしているものと考えられる。

一方、遊漁自体の存在について、「やむを得ない」以上が33%、「規制すべき」が57%と、前回の調査同様に規制を望む意見が多かった。

### (3) 水産物流通についての意識

漁獲物の主な出荷先は図24に示すように、漁協開設市場が23%、公設・民間開設の地方卸売市場が42%、北九州市場等の中央卸売市場が28%であった。前回調査では漁協開設市場への出荷が45%であったが、今回の調査ではこの割合が大きく減少している。

漁協開設市場への出荷と答えた者の割合を年齢階層別にみると、前回調査では若年層で28%、壮年層で47%、高年層で58%と高年層ほど漁協開設市場への依存度が高かったが、今回調査ではそれぞれ10%、25%、20%へと低下し、特に高年層における低下が顕著であった。この要因として漁協開設市場数そのものが前回調査時の5市場(柄杓田、曾根、苅田町、蓑島、椎田町漁協)から3市場(蓑島、椎田町漁協開設市場が廃止)に減少したことに加え、買い受け人や小売店の減少等といった漁協市場の価格形成力の低下が考えられる。

このような漁協開設市場の機能低下は、出荷に伴う労働力に乏しい高齢者にとっては厳しい現実であり、今後、高齢化に伴う漁業者の減少に更に拍車をかける要因となることが危惧される。

次に、漁獲物の出荷形態は「活魚」が38%、「魚種によって異なる」が46%と前回調査のそれぞれ20%、33%と比較して大きく増加し、漁獲物をより高く販売するといった経営意識が向上したものと考えられる。しかし、一方で魚価自体については図25に示したように「安い」と答える者が90%と前回調査の68%を大きく上回り、更には自身が出荷した漁獲物の流通ルートについて

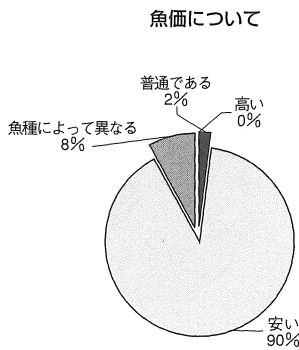


図25 魚価に関する意識

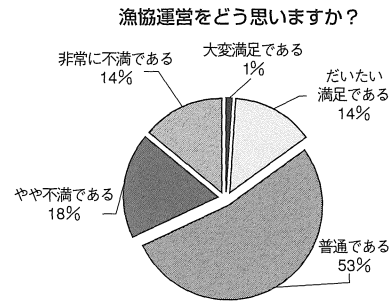


図27 漁協運営に関する意識

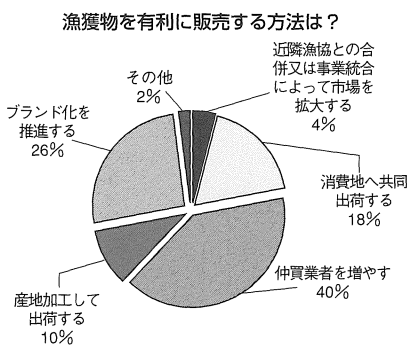


図26 漁獲物の有利な販売方法に関する意識

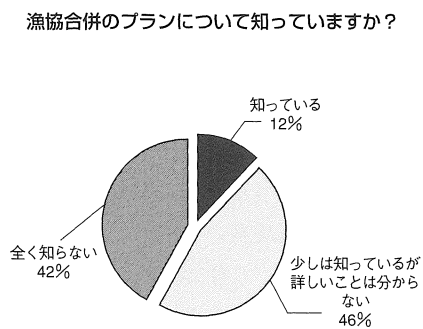


図28 漁協合併プランの認識度

全く知らないと答える者の割合も増加していた。特にこの傾向は中部から南部地域にかけての漁業勢力の強い地域において顕著で、魚価安の深刻化が海域の中・南部を中心に更に進んでいるものと考えられる。

このような状況の中で、漁獲物を有利に販売できる方法として図26に示したように「仲買業者の増加」を望む声が40%と依然として多く、「水産物のブランド化の推進」を挙げる者も若年層～壮年層を中心に全体の26%と高い。このことは近年台頭している養殖カキや朝市等、直販店の開設に代表されるように、既存の市場流通に依存しない個別販売への転換が今後とも進むことを予測させる。

#### (4) 漁業協同組合についての意識

##### 1) 漁業協同組合の運営について

現在の漁協運営については図27に示すように「普通である」、「満足している」といった肯定的な評価をしている者が前回調査と比較してやや高い68%を占めた。年齢階層別にみると前回調査では肯定的な評価をする者が若年層で61%、壮年層で62%、高年層で54%と若年層ほど高い傾向が認められたが、今回調査ではそれぞれ60%、68%、72%と逆に若年層ほど低い結果となった。

また今後、期待する漁協事業については前回調査で「購買や金融関係」が62%、「販売・出荷関係」が28%であったのに対し、今回の調査では「購買や金融関係」はわずか6%であり、逆に「販売・出荷関係」が43%と急増し、この傾向は若年層や壮年層ほど高かった。

これら漁協運営に対する意識傾向は、魚価安を背景にしたものであると考えられ、現在の漁協運営はもとより海区における水産物の流通構造そのものに対する改善要望として捉えるべきであると考えられる。

##### 2) 漁業協同組合合併について

漁業協同組合合併プラン（有明海区を除き県内の漁業協同組合を1本化）についての認識度については図28に示すように、全体的には「知っている」、「少しは知っている」と答えた者が6割弱を占める一方、「全く知らない」と答えた者が4割強もいることが明らかになった。年齢別にみると中年から高年層で「知っている」、「少しは知っている」と答えた者の割合が6～7割であったのに対し、若年層では7割が「全く知らない」と答えており、年齢間の格差が浮き彫りになった。地域別にみると、北部地域で「知っている」と答えた者の割合が他地域に比べ高いが、「少しは知っている」まで含めると逆に南部地域における意識が高くなっている。

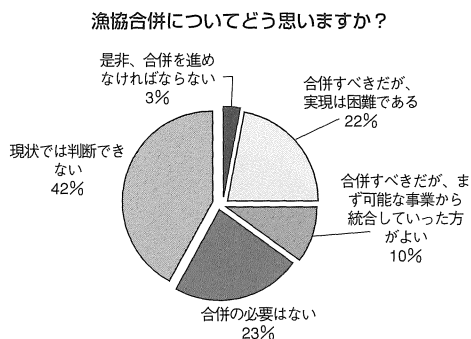


図29 漁協合併に関する意識

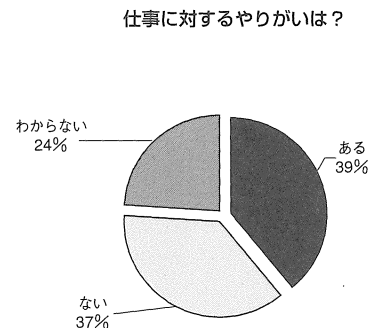


図30 仕事に対するやりがいに関する意識

この結果については、合併計画が末端漁業者にまで周知徹底されていないことを表すものと考えられる。

次に、合併の是非についてを、まず年齢別にみると、若年層において漁協合併に賛成する意見が少なくことが特徴的であり、その傾向は前回調査時と比較しても高くなりつつある。一方で中年、高年層では若年層と比較して、合併に対する意識は高いものの、若年層同様に合併に賛成する意見は少なくなりつつある。

更に、これを地域別にみると、北部地域では「是非進めなければならない」と答えた者が減少する一方で、「合併の必要なし」と答えた者が増加していることが特徴的である。中部地域、南部地域では「合併の必要なし」と答えた者が前回調査より減少している。

全体的にみると図29に示すように「合併の必要なし」という意見23%と前回調査時より減少しているものの、「合併を推進すべき」という意見も同時に35%と減少傾向にあり、「現状では判断できない」という意見が42%と増加しているという混沌とした情勢に変化しつつある。

また、合併を阻害する要因については、「漁業権問題」と「漁業協同組合間の格差」が最も大きなものとして捉えられており、次いで「漁業形態の違い」、「漁村慣習の違い」となっている。

今回の調査において、北部、南部で「漁業権問題」を阻害要因と考える者が減少し、逆に中部では増加するなど地域別のばらつきが見られるものの、全体的には3割程度と前回調査とはほぼ変化がなかったが、「漁業協同組合間の対立」と答えた者は前回調査から大幅に増加しており、特に、年齢別では若年から中年層まで、また地域別では北部、南部地域でその増加傾向が認められた。その他「漁業形態の違い」や「漁村慣習の違い」と答えた者はそれぞれ1割程度で、前回調査と比較してわずかながら減少傾向にある。

合併を阻害する大きな要因として捉えられている漁業

権については、合併に伴って実態のない許可、免許が剥奪されるのではないかと漠然とした不安とアサリ、クルマエビといった地先資源の共有化を危惧する声が高いものと考えられる。

## (5) 漁村生活についての意識

### 1) 漁業に対する職業観

現在の仕事に対するやりがいについては、前回の調査では「ある」と答えた者が45%、「無い」と答えた者が39%で「判らない」と答えた者が16%であったのに対し、今回調査では図30に示すようにそれぞれ39%、37%、24%であった。「ある」と答えた者を年齢階層別にみると若年層で75%、壮年層で58%、高年層で28%で、高年層ほど漁業という仕事に対するやりがいを失いつつあることが明らかになった。通常、仕事に対するやりがいは経験年数に応じ高まるものと考えられるが、今回の結果では全く反対の結果となり、高齢者の漁業離れが今後とも進んでいくものと考えられる。

### 2) 生活環境について

現在の生活水準について、世間一般の平均水準以下と答えた者が56%であり、前回調査とほぼ同程度であった。これを年齢階層別にみると若年層で40%、壮年層で52%、高年層で58%であり、前回調査のそれぞれ44%、65%、30%と比較しても、高年層で他の年齢層より高く、その割合は増加する傾向が認められる。

さらにこれを地域別にみると、北部地区で47%、中部地区で60%、南部地区で63%と前回調査時のそれぞれ59%、56%、54%と比べて北部地域では低下しているものの、中部～南部地区ではこの割合が増加していることが明らかになった。

一方で、漁村での住み心地については「満足している」と答えた者が全体の51%に達しているが、地域別にみるとやはり南部地域において満足度が低いことが明らかになった。

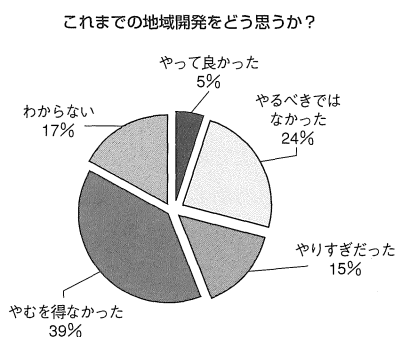


図31 これまでの地域開発への評価

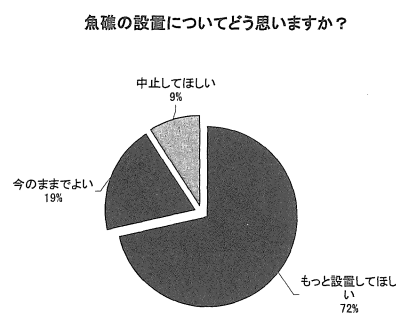


図33 魚礁設置に対する評価

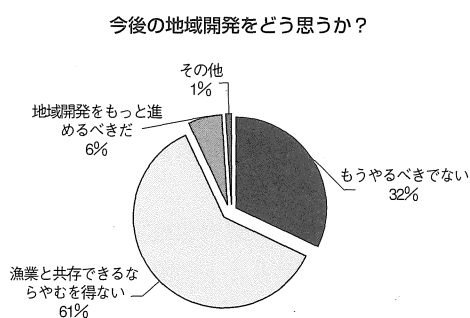


図32 今後の地域開発に関する意識

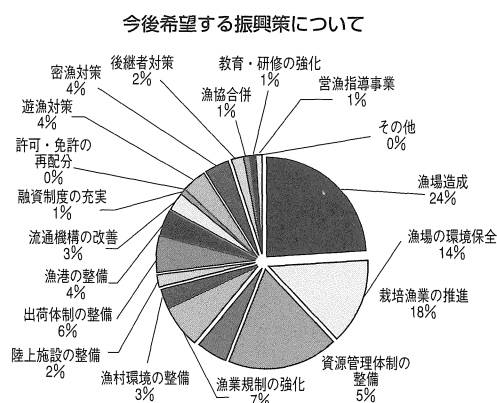


図34 期待する漁業振興策に関する意識

また、漁村生活環境の改善点については「高齢者施設」を望む声が29%と最も高く、次いで「医療関係」の21%と、前回調査時と比較して高くなっており、老後に不安を抱える者の割合が高くなっているのが漁村の現状である。

### (6) 漁業環境影響についての意識

地域開発に対する評価については、前回調査において「やるべきでなかった」が57%、「やむを得なかった」が21%であったのに対し、今回の調査では図31に示すようにそれぞれ24%、39%と変化した。

また、地域開発による漁業への影響についても前回の調査では「悪くなった」が95%であったのに対し、今回は77%と減少している。

更には今後の地域開発についても図32に示すように漁業との共存を前提に「やむを得ない」とする者の割合が61%と前回の調査結果と比べて急増した。

一方で、地域開発による漁業就業機会についても北部地域を中心として増加しており、また漁業関連施設についても「良くなった」と答える者が増加するなど、全体的には地域開発に対して寛容的な意見が増加しているのが現状である。

### (7) 地域漁業振興についての意識

魚礁の設置については、図33に示すように「もっと設置してほしい」という意見が72%を占めるなど、全体的に高い評価を得ている。しかしながら、小型底びき網が多い南部地域では他地域と比較してやや評価が低いことも事実である。また、覆砂事業についても「更に進めてほしい」という意見が78%に達するなど、魚礁設置と同様に高評価を受けているが、高齢者や北部地域など覆砂漁場の利用率が低い階層や地域では評価が比較的低いようである。

栽培漁業、特に甲殻類の中間育成事業については、76%の者が現在より「規模拡大を希望する」など、壮年層を中心に積極的な意見が多い。

また、今後期待する振興策については、図34に示すように「漁場造成」が最も多く24%、次いで「栽培漁業の推進」が18%と前回調査同様に上位を占めたが、「出荷体制の整備」(6%)や「流通機構の改善」(3%)など販売対策に関する要望が前回調査と比較して増加したことが特徴的である。

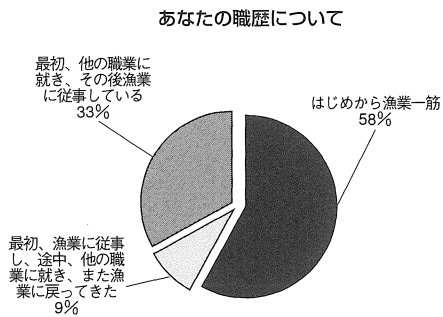


図35 これまでの職歴について

### (8) その他(職歴について)

職業履歴については図35に示すように、はじめから漁業一筋と答えた者が全体の58%を占めたが、U I ターン者も42%に達している。また、U I ターン者については他の職業歴が短い、つまり年齢的に若い段階で漁業に帰ってくる者が多いことが分かった。そのきっかけとして「跡継ぎがいなかった」ことを挙げる者が65%と圧倒的に多いが、年齢階層別には若年層や高年層において、また地域別には北部地域では「儲かるから」と答えた者の割合が比較的高い。この理由として北部地域ではカキ養殖の台頭や若年層では不況の影響が強いと考えられるが、高齢者については彼らが漁業に参入した時代の資源状況や魚価が現在と比較して良好かつ安定していたことによるものと考えられる。

また、漁業に戻ってきた感想については「良かった」と答える者の割合が34%を占めた。地域別にみると北部地域でその割合が高く、逆に南部地域は低かった。

今回の調査結果から抽出された最も大きな問題は、これまで海域の主幹漁業的な存在であった小型底びき網や小型定置網など大きな設備投資を必要とする漁業の着業数が減少し、特にこの傾向は、これら漁業への依存度が高く、しかも海域漁業の中心的な存在であった中・南部地域において顕著であるように、漁業への依存度が急激に低下していることである。

これまで豊前海における海域漁業の将来展望については、漁業への依存度の低い北部地域から崩壊すると予測されていたが、当該地域においては、カゴや刺網といった設備や労働投下が多く高齢者でも従事可能な漁業や収益性が高く漁業経験をさほど必要としないカキ養殖等への転換が進んだことで、漁業者や延べ着業漁業種類の減少率が他地域より低くなっている。

また、漁業者の意識傾向も「経営収支の把握」や「活

魚出荷への切り替え」など経営管理意識が向上してはいるものの、中・南部地域では漁業収入への不満や経営苦を意識する傾向が顕著で、「漁業をやめたい」あるいは「仕事に対するやりがいがない」など、悲観的な意見が多くなっているのが現状である。

このように海域漁業の中心的な役割を担っている中・南部地域において水揚げされる漁獲物は、水産会社による直接買い付けや、近隣の地方卸売市場への出荷が行われているが、市場における買い受け人や供給対象人口の少なさといった市場を取り巻く環境の悪化や更には交通網整備の遅れなど漁獲物の商品化条件は決して良くなく、北部地域と比較して価格形成力に乏しいのが実状である。当該地域における漁業着業数の減少や漁業に対する意識の後退傾向が強い背景には「魚価低迷」が大きな存在として位置づけられ、この問題を今後どのように解決していくかが、漁業振興上の最も大きな命題であると考えられる。

当該地域における魚価低迷の根底にある劣悪な商品化条件については、漁業者サイドの努力のみで早急に改善できるものではないが、現在、魚価対策の一環として、定期開催あるいは常設の朝市や道の駅の他に、さかな祭や産業祭など各種イベントにおいて、漁業者自らによる消費者への直接販売活動が展開されつつある。これは魚価安対策として有効な手段であると考えられるが、現状では直販活動に供される漁獲物は多量に水揚げされるもののごく一部を対象としたものであり、これらの活動による直接収益の増大はわずかである。

今後、直販活動を更に展開するためには、主な販売対象者(域外者なのか、域内者なのか等)を明確にして、鮮度、価格、調理のし易さ及び販売時間など購入動機に関する消費者ニーズを的確に把握して、これを販売戦略に反映させることを検討すると同時に、生産者も消費者ニーズに対応できるように出荷体制を整備していく必要があると考える。これに並行して、さかな祭や産業祭等において直販活動を紹介するなど、多数の来客が見込まれるイベント等との有機的な連携や看板、チラシを用いた宣伝、あるいはホームページへの掲載等、独自の宣伝活動を展開し、顧客を増大させることが必要であると考える。

## 要 約

- 1) 豊前海における漁業者の着業状況の変化や意識傾向を把握するため、漁業協同組合の漁業種類別着業状況を調査するとともに、そこに所属する漁業者の意識調査を行った。
- 2) 海区全体として漁業者数の減少が著しく、特に中・南部地域でその傾向が強かった。
- 3) 特に、小型底びき網や小型定置網など設備投資を必要とする漁業が減少し、カゴや刺網などの「小漁」の他、カキ養殖業の着業者が多くなった。
- 4) 漁業種類の組み合わせパターンが減少（単調な組み合わせパターンへと変化）した。

- 5) 海域漁業の中心的存在であった中・南部地域においては「漁業依存度の低下」や「漁業収入への不満」及び「経営苦」等の意見が他地区に比べて多く、地域漁業の活性が徐々に失われつつある。
- 6) 経営圧迫要因として「魚価低迷」を挙げる意見が多かった。
- 7) 魚価対策として「ブランド化」や「販売対策」に期待する意見が多かった。

## 文 献

- 1) 平成元年度福岡県広域資源培養管理推進事業報告書（瀬戸内海西ブロック）、平成元年度

付表1 漁業者意識アンケート様式

1 地域漁業・漁家経営についての意識

1 現在あなたの収入は何に頼っていますか？

- ① 漁業のみ
- ② 漁業が主であるが他の仕事もしている
- ③ 漁業と他の仕事が半分半分である
- ④ 他の仕事为主で漁業は補足的に行っている

2 あなたは現在の漁業収入に満足していますか？

- ① 大変満足している
- ② だいたい満足している
- ③ 普通である
- ④ やや不満である
- ⑤ 非常に不満である

3 あなたの経営状態は10年前に比べてどうですか？

- ① 非常に楽になった
- ② やや楽になった
- ③ あまり変わらない
- ④ 苦しくなった
- ⑤ 非常に苦しくなった

4 あなたの経営を一番圧迫している要因は何だと思いますか？

- ① 水揚量の減少
- ② 燃油・漁業資材等の値上がり
- ③ 魚価の低迷
- ④ その他 ( )

5 あなたは体力的なものも含め、あと何年漁業に従事する自身がありますか？

- ① 0～4年
- ② 5～9年
- ③ 10～14年
- ④ 15～19年
- ⑤ 20～29年
- ⑥ 30年以上

6 あなたは自分の経営実績をどのような方法で把握していますか？

- ① 収支を帳簿やコンピューターに記録している
- ② 概略の収支をメモしている
- ③ 仕切書、領収書を保管し、見当を付けている
- ④ おおよその感じですらつかんでいる
- ⑤ その他 ( )

13 前問で②継がせたくないと答えた方は、なぜ継がせたくないのですか？

- ① 仕事が重労働で、危険を伴うから
- ② 休日が少なく、余暇を楽しめないから
- ③ 収入が少なく、不安定だから
- ④ 汚い仕事でかっこ悪いから
- ⑤ サラリーマンのように労働時間が一定でないから
- ⑥ 引退後の生活保障が十分でないから
- ⑦ 稼がれないから
- ⑧ その他 ( )

14 子供は漁業を継ぐつもりですか？

- ① 漁業を継ぐと言っている
- ② 漁業を継ぎたくないと言っている
- ③ まだ決まっていない

2 資源管理についての意識

15 豊前海の漁業資源は現在どのような状態にあると思いますか？

- ① 非常に減少していて、このままでは資源枯渇の恐れがある
- ② 減少の傾向が見られ、将来が不安である
- ③ 年によって変動はみられるもののほぼ安定している
- ④ 増加の傾向が見られ、将来に希望もてる

16 前問で①、②と答えた方は、資源が減少したのは何が原因であると思いますか？

- ① 乱獲
- ② 埋め立てによる干潟の減少
- ③ 堤防の設置等による漁場環境の変化
- ④ 家庭排水、工場廃水による水質の悪化
- ⑤ 自然変動による減少
- ⑥ その他 ( )

17 最近、資源が減少したと感じられる魚種のうち、特に顕著なものを3種類あげてください。

- ① ( )
- ② ( )
- ③ ( )
- ④ 減少魚種なし

18 最近、資源が増加したと感じられる魚種のうち、特に顕著なものを3種類あげてください。

- ① ( )
- ② ( )
- ③ ( )
- ④ 増加魚種なし

7 あなたは自分の経営を改善するためにどのような努力をしていますか？

- ① 燃油や漁業資材等の生産経費を削減している
- ② 生産効率の悪い時期は操業しないようにしている
- ③ 他漁業への転向を考えている
- ④ 共同や協業をしている
- ⑤ 漁獲物をより高く出荷販売するために努力している
- ⑥ 高級魚を対象に操業している
- ⑦ 経営改善の方法がないので漁業外収入の増大を図っている
- ⑧ 経営改善の方法がないので漁業外への転職を考えている
- ⑨ その他 ( )

8 今後、あなたは漁業をどのようにして続けますか？

- ① 現在より規模を拡大して続けたい
- ② 現在の規模で続けたい
- ③ 現在より規模を縮小して続けたい
- ④ 協業化を進めたい
- ⑤ できれば漁業をやめたい
- ⑥ 漁業をやめる
- ⑦ 現状では判断できない
- ⑧ 他漁業への転向を考えている

9 前問で⑧と答えた方は、具体的にどのような漁業や取り組みを考えていますか？

- ① カキ養殖
- ② その他養殖
- ③ 流し網
- ④ カゴ、刺網
- ⑤ 小底、定置網
- ⑥ 畜養
- ⑦ その他 ( )

10 あなたは地域漁業の将来をどのように考えますか？

- ① 発展する
- ② 現状維持で推移する
- ③ 衰える
- ④ 現状では予測できない

11 漁業の後継者はいますか？

- ① いる
- ② いない

12 あなたは子供に漁業を継がせたいと思っていますか？

- ① 継がせたい
- ② 継がせたくない
- ③ 子供に任せる
- ④ わからない

19 豊前海の漁業秩序の現状をどのように考えますか？

- ① 漁業秩序は適正に保たれている
- ② 漁業秩序は乱れており県・漁業調整委員会による規制を強化し、漁業取り締まりを徹底すべきである
- ③ 漁業秩序は乱れており、漁業種類間の話し合い、相互監視で資源・漁場利用の合理化を積極的に進めるべきである
- ④ 規制が厳しすぎるので、もっと緩和し、ある程度自由に操業させた方がよい
- ⑤ その他 ( )

20 豊前海の漁業が安定した生産を保つためには適正な漁業管理や漁業規制が必要であると思いますか？

- ① 必要と思う
- ② 必要でない

21 前問で①と答えた方は具体的にどのような漁業規制が必要であると思いますか？あなたの行っている漁業種類について一番必要と思われるものをあげてください。

- ア) 小型底びき網
- ① 網目の規制
  - ② 操業禁止区域の設定
  - ③ 操業禁止期間の設定及び延長
  - ④ 漁獲体長の制限
  - ⑤ 漁船馬力の制限
  - ⑥ 漁船数の制限
  - ⑦ その他 ( )
- イ) 桁網 (小型定置網)
- ① 網目の規制
  - ② 操業禁止期間の設定及び延長
  - ③ 漁獲体長の制限
  - ④ 統数の制限
  - ⑤ その他 ( )
- ウ) 刺網
- ① 網目の規制
  - ② 操業禁止区域の設定
  - ③ 操業禁止期間の設定及び延長
  - ④ 漁獲体長の制限
  - ⑤ 漁船数の制限
  - ⑥ その他 ( )



22 遊漁による影響や被害がありますか？

- ① ある  
② ない  
③ わからない

23 前問で①と答えた方は、一番影響や被害があるのはどれですか？

- ① 航行の障害になる  
② 漁具に被害を与える  
③ 撒き餌による被害がある  
④ 密漁が多い  
⑤ ゴミを捨てる  
⑥ 無断係船が多い  
⑦ その他 ( )

24 あなたは遊漁をどう思いますか？

- ① 認めるべきである  
② ある程度やむを得ない  
③ 規制すべきである  
④ わからない  
⑤ その他 ( )

### 3 水産物流通についての意識

25 あなたは漁獲物をどこに出荷されますか？

- ① 主に漁協開設市場  
② 主に地方卸売市場（行橋、中津、田川等）  
③ 主に中央卸売市場（北九州、福岡）  
④ 主に浜売り  
⑤ 魚種によって異なる

26 あなたは漁獲物をどのような形態で出荷しますか？

- ① 主に活魚  
② 主に鮮魚  
③ 魚種によって異なる

27 魚価についてどう思われますか？

- ① 高い  
② 普通である  
③ 安い  
④ 魚種によって異なる

28 あなたは自分の獲った魚がどのように売られ、食べられているか知っていますか？

- ① 知っている  
② だいたい知っている  
③ 全く知らない

29 どうすれば、漁獲物を有利に販売できると思いますか？

- ① 近隣漁協との合併又は事業統合によって市場を拡大する  
② 消費地へ共同出荷する  
③ 仲買業者を増やす  
④ 産地加工して出荷する  
⑤ ブランド化を推進する  
⑥ その他 ( )

### 4 漁協についての意識

30 あなたは現在の漁協運営をどう思いますか？

- ① 大変満足である  
② だいたい満足である  
③ 普通である  
④ やや不満である  
⑤ 非常に不満である

31 漁協が行っている事業の中であなたがよく利用されている事業を挙げてください。

- ① 販売事業  
② 購買事業  
③ 信用事業  
④ 製氷・冷蔵・冷凍事業  
⑤ 利用事業  
⑥ 加工事業  
⑦ 指導事業  
⑧ その他 ( )

32 あなたは漁協に今後、どんな事業に力を入れてもらいたいと思いますか？

- ① 販売・出荷関係  
② 購買関係  
③ 金融関係  
④ 製氷・冷蔵・冷凍関係  
⑤ 加工・利用関係  
⑥ 営漁指導関係  
⑦ 密漁防止関係  
⑧ 資源増殖関係  
⑨ その他 ( )

33 あなたは現在進められている漁協合併の具体的なプランについてご存じですか？

- ① 知っている  
② 少しは知っているが詳しいことは分からない  
③ 全く知らない

34 あなたは漁業合併についてどう思いますか？

- ① 是非、合併を進めなければならない  
② 合併すべきだが、実現は困難である  
③ 合併すべきだが、まず可能な事業から統合していった方がよい  
④ 合併の必要はない  
⑤ 現状では判断できない

35 仮に漁協合併を進めるとして、一番合併を阻害している要因は何だと思いますか？

- ① 漁業権問題  
② 漁協間の格差  
③ 役員選出問題  
④ 漁業形態の違い  
⑤ 漁村の慣習の違い  
⑥ 感情的対立  
⑦ 幹部に熱意がない  
⑧ 行政の問題  
⑨ その他 ( )

40 漁村生活環境について改善・整備すべき点がありますか？

- ① 道路・交通  
② 医療関係  
③ 教育関係  
④ 下水道施設  
⑤ ゴミ・し尿処理施設  
⑥ 公園・遊園地  
⑦ 保育園・託児所  
⑧ 集会所・公民館・漁村センター  
⑨ 娯楽・スポーツ施設  
⑩ 高齢者施設  
⑪ その他 ( )

41 あなたは老後についてどう思いますか？

- ① 不安である  
② 心配ない  
③ わからない

### 5 漁村生活についての意識

36 今の仕事に対して「やりがい」がありますか？

- ① ある  
② ない  
③ わからない

37 あなたはどのようにして漁業をしているのですか？

- ① 家の仕事だから  
② 他に職がないから  
③ 収入が多いから  
④ 好きだから  
⑤ その他 ( )

38 あなたの家庭の生活水準は世間一般と比べてどの程度だと思いますか？

- ① 平均水準以下  
② 平均水準  
③ 平均水準以上  
④ わからない

39 漁村での住み心地についてどう思いますか？

- ① 満足している  
② 不満がある  
③ わからない

### 6 漁業環境影響についての意識

42 これまでの地域開発・埋め立てをどのように評価されますか？

- ① やって良かった  
② やるべきではなかった  
③ やりすぎだった  
④ やむを得なかった  
⑤ わからない

43 地域開発・埋め立てによって漁場環境はどうなりましたか？

- ① 良くなった  
② 悪くなった  
③ 変わらない

44 地域開発・埋め立てによって生活環境はどうなりましたか？

- ① 良くなった  
② 悪くなった  
③ 変わらない

45 地域開発・埋め立てによって漁港・道路・漁協等の漁業関連施設はどうなりましたか？

- ① 良くなった  
② 悪くなった  
③ 変わらない

46 地域開発・埋め立てによって地元での漁業外就業機会が増えましたか？

- ① 増えた
- ② 減った
- ③ 変わらない

47 地域開発・埋め立てによって漁業者の気持ちに変化がありましたか？

- ① 変わった
- ② 変わらない

48 今後の地域開発・埋め立てをどのように考えますか？

- ① もうやるべきでない
- ② 漁業と共存できるならやむを得ない
- ③ 地域開発をもっと進めるべきだ
- ④ その他 ( )

#### 7 地域漁業振興についての意識

49 魚礁の設置についてどう思われますか？

- ① もっと設置してほしい
- ②今のままでよい
- ③ 中止してほしい

50 砂撒き(覆砂)事業についてどう思われますか？

- ① もっと設置してほしい
- ②今のままでよい
- ③ 中止してほしい

51 栽培漁業(中間育成事業)について

- ① 現在より施設や放流数を拡大してほしい
- ② 現状のままでよい
- ③ 中間育成はせず、直接放流がよい
- ④ やめた方がよい
- ⑤ その他 ( )

56 問53で②、③と答えた方に質問します。なぜ漁業に戻ってきてどうですか？

- ① 良かった
- ② 悪かった
- ③ どちらとも言えない

52 今後、どのような漁業の振興策を希望しますか？(3つ挙げてください)

- ① 砂撒き、魚礁等の漁場造成
- ② 漁場の環境保全
- ③ 種苗放流等の栽培漁業の推進
- ④ 資源・漁場の合理的利用体制の整備
- ⑤ 漁業規制・取り締まりの強化
- ⑥ 漁村環境の整備
- ⑦ 製氷・冷凍・冷蔵・加工・荷捌き施設等の整備
- ⑧ 漁獲物出荷体制の整備
- ⑨ 漁港関連施設の整備
- ⑩ 流通機構の改善
- ⑪ 融資制度の充実
- ⑫ 許可・免許の再配分
- ⑬ 遊漁対策
- ⑭ 密漁対策
- ⑮ 漁業後継者対策
- ⑯ 漁協強化対策(漁協合併を含む)
- ⑰ 漁民教育・研修の強化
- ⑱ 営漁指導事業
- ⑲ その他 ( )

#### 8 その他

53 あなたの就職歴をお教え下さい。

- ① はじめから漁業一筋。
- ② 最初、漁業に従事し、途中、他の職業に就き、また漁業に戻ってきた。
- ③ 最初、他の職業に就き、その後漁業に従事している。

54 前問で②、③と答えた方に質問します。何歳頃、漁業に戻ってきたのですか？

- ① 20歳代
- ② 30歳代
- ③ 40歳代
- ④ 50歳代
- ⑤ 60歳代
- ⑥ それ以上

55 問53で②、③と答えた方に質問します。なぜ漁業に戻ってきたのですか？

- ① 前職より儲かるから
- ② 跡継ぎがいなかったから(親の家業を継ぐため)
- ③ 会社を自主退職し、他に職がなかったから
- ④ 会社が倒産あるいはリストラされたから
- ⑤ その他 ( )







設問	回答集計結果(地域別:南部地域)%																		
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲
1	53	23	9	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	5	7	40	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	2	19	56	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	42	14	42	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	19	43	12	17	7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	5	24	45	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	39	24	2	5	12	7	7	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	2	49	5	2	20	2	15	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	30	10	0	30	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	0	7	47	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	9	91	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	10	67	21	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	19	0	59	0	0	19	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14	13	66	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	33	65	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	43	21	7	14	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19	22	47	28	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	95	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21ア	16	44	19	9	6	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21イ	22	17	52	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21ウ	41	23	5	27	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22	62	17	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23	22	26	22	4	19	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24	5	33	53	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25	2	63	15	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26	36	31	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
27	0	0	90	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
28	22	56	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
29	3	24	24	19	24	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30	0	29	47	13	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31	13	40	13	20	3	3	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
32	29	3	0	6	11	3	6	40	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
33	8	59	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34	0	15	18	15	51	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
35	15	52	0	12	15	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
36	39	39	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
37	33	19	0	47	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
38	63	28	2	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
39	51	33	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40	24	20	4	12	8	0	0	8	0	20	4	0	0	0	0	0	0	0	0
41	67	10	21	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
42	2	31	14	33	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
43	2	86	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
44	10	50	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45	49	7	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
46	13	8	79	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
47	44	56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
48	38	56	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
49	68	15	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50	80	18	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
51	80	13	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
52	22	17	17	6	7	2	3	8	3	2	1	1	1	5	3	1	0	2	0
53	58	14	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
54	21	11	16	26	21	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55	0	93	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
56	9	9	82	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0